

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

個別事業等に関連した実践的・試行的活動の内容・結果等

(1) 「ことば文化都市伊丹」特区の推進

(事業概要)

小中学校のことば科、グローバルコミュニケーション科の設置を始め、伊丹固有の俳諧や文学に関わる催し（全国俳句大会、講演会、俳句塾、漢字検定等）の開催や貴重なコレクションの活用などにより、「ことば文化都市伊丹」としての都市イメージの向上を図っている。

(事業効果)

市内在住の小中学生がいる家庭を中心に取組が浸透しつつあるところであるが、平成18年度に始まったところであり、また、本事業単体としての目に見える大きな成果は得られていない状況ではあるが、一部において効果が見られ、継続した取組による効果が期待される。

- ・全国花の俳句大会の参加者数は500人（2回とも）
- ・中心市街地人口は微増（2年間で約3.8%増加）している

(今後の展開)

本事業を引き続き推進していくことにより、市内だけでなく、市外へ周知させ、「ことば文化都市伊丹」特区として定着させ、都市イメージを向上させる。

(2) 商業振興特定誘致地区補助制度活用事業

(事業概要)

商業施設の充実を図るため、新たな商業施設の建設や商業施設の増改築、新規出店を行う場合に、建設・運営費用等、出店に係る費用の一部を支援する制度である。

(事業効果)

現在、JR伊丹駅周辺の2軸上において、白壁と黒瓦で建物のイメージを統一した郷町長屋と呼ばれる7店舗が本事業を活用してオープンしており、JR伊丹駅の反対側にあるイオンモール伊丹テラスの集客を中心市街地へと吸引し、人通りも増えている状況である。

- ・平成6年の歩行者通行量5,471人(アリオ前、平日・休日平均)が10,491人へ増加（平成18年）
- ・7店舗を中心とした「伊丹酒蔵協議会」が発足し、市内外にこの通りを広く周知させるための自主的な取組を実践している

(今後の展開)

今後も新規出店等を促進していくため、本事業を継続していくことにより、商業施設の充実を図る。

(3) まちなか大規模イベントの開催・拡充ほか

(事業概要)

中心市街地では、春夏秋冬四季折々において多様な大規模なイベントを開催してい

る。

- ・宮前まつり、蔵まつり、愛染まつり、ふれあい夏まつり
- ・いたみわっしょい
- ・だんじり・みこしフェスティバル
- ・伊丹マダン
- ・ボランティアまつり
- ・ナイトバザール
- ・蔵富都たうんみゅーじあむ
- ・伊丹オトラク ほか多数

(事業効果)

- ・いたみわっしょい参加団体数の増加団体数 38 団体 (平成 19 年))
- ・春・秋の宮前まつり、夏のふれあい夏まつり、冬の蔵まつり、伊丹マダン、ボランティアまつりなど数万人規模の集客があり、他のイベントについても数千人規模を集客している。

(今後の展開)

イベント開催時のみならず、市内外の人たちが、イベントを通して中心市街地のことを知り、日常的に中心市街地に訪れてもらえるよう、継続的にイベントを開催する

[2] 都市計画との調和等

(1) 伊丹市総合計画 (2000 年 ~ 2010 年) における位置づけ (再掲)

伊丹市総合計画では、21 世紀に歩む道筋をつけるべく、伊丹市の将来像を「豊かな生活空間 人間性あふれる成熟社会をはぐくむ市民自治のまち」とし、特に、中心市街地活性化については、目標の3「働きやすく、にぎわいと活力のあるまち」の基本課題として「魅力あるにぎわいづくりと集客」の中で以下が明示されている。

中心市街地の再生

1. 活力ある商業・業務ゾーンの形成

- 1) 本市の中心核の市街地再開発事業などを進め、さらなる商業・業務機能の集積と充実を図る。また、阪急伊丹駅周辺地域、JR 伊丹駅周辺地域、宮ノ前地区、サンロード商店街地区の4 極相互の連携と歩行者優先道路など2 軸の整備による動線の確保により、活力ある商業・業務ゾーンの形成を目指す。
- 2) 公共施設の整備とあわせ、経営者自らの積極的な活性化を推進するための指導・育成・支援を行う拠点として産業交流センターを整備し、一方、商業者自らのまちづくりや活性化策の推進のため、TMO (街づくり機関) の設置を進める。
- 3) 個店等の個性と魅力の創出なども含め、回遊性にあふれ、全ての人にとって楽しく飲食や買物のできる空間整備に努める。また、中心市街地への求心力を高め、市外への購買流出を防ぐ。
- 4) 中心市街地全体としてのポテンシャル向上が図られるよう、「住みやすく買物しやすい活気ある郷町(まち)」を目指した中心市街地活性化基本計画をはじめ既存のプロジェクトなども推進する。民間開発を誘導し、工場跡地の利用や周辺整備にも努

める。

2. 安全で快適な生活交流拠点の形成

1) ふれあいと豊かさに満ちた市民生活を送ることができるよう、定住人口の増加策を進め、中心市街地全体での良好な都市景観の創出とユニバーサルデザインを視野に入れた施設整備等を推進し、防災や環境に配慮した安全・快適で人にやさしい生活交流拠点の形成を目指す。

3. 都市機能が充実し利便性の高いにぎわい交流拠点の形成

1) 鉄道、バスなどの公共交通体系の充実によるアクセス基盤の整備を図り、利便性の高いにぎわい交流拠点の形成を目指す。

4. 歴史と文化を活かした緑豊かなアメニティ拠点の形成

1) 歴史的まちなみや文化施設、緑を有機的に連携させ、文化核の整備とアメニティ拠点の形成に努める

(2) 伊丹市都市計画マスタープラン 2004 における位置づけ(再掲)

伊丹市都市計画マスタープランでは、伊丹市固有の自然的環境や歴史的文化的環境、景観などのまちの個性を、地域資源としてまちづくりに活かすとともに、伊丹に住むすべての人、伊丹に働くすべての人、伊丹を訪れるすべての人が、安全で安心して快適に都市生活や都市活動を営むことのできるまちづくりを進めることにより、個性豊かであたたかい福祉と快適な環境に守られた市民が主役の『ともに生き ともに育む 誇りと愛着をもてるまち 伊丹』を創造することを都市づくりの目標としている。

地域別構想において、中心市街地は「にぎわい交流ゾーン」として位置づけられており、阪急伊丹駅から JR 伊丹駅周辺にかけて、交通機能や商業・業務、文化、歴史施設など様々な施設が集積しているゾーンとしており、以下が明示されている。

「にぎわい交流ゾーン」

「歴史・文化の活用とにぎわいの創出による市のシンボル拠点のまちづくり」

・ 4 極(拠点)・ 2 軸によるにぎわい交流ゾーンの形成

西の拠点のまちづくり 阪急伊丹駅周辺

・ 商業・業務、交通の拠点として、中心市街地の西の玄関口にふさわしい整備とまちの機能維持

東の拠点のまちづくり JR 伊丹駅周辺

・ 駅西地区と駅東地区との連携により、緑豊かでゆとりのある中心市街地の東の玄関にふさわしい商業拠点としてのまちづくり

北の拠点のまちづくり - 宮ノ前地区

・ 新旧のまちなみが調和し、歴史性・文化性豊かなにぎわいのある北の拠点としての整備

南の拠点のまちづくり - サンロード商店街地区

・ アーケード型の商店街を中心に、市民にとって親しみとにぎわいのある拠点としての整備

2 軸の整備 - 歩行者優先道路

- ・歩行者優先道路沿道における店舗の立地を誘導し、にぎわいある回遊空間の形成

(3) 伊丹市産業振興ビジョン アクション・プログラム 2006 - 2010 における位置づけ(再掲)

伊丹市産業振興ビジョン アクション・プログラムでは、基本理念を『地域資源を最大限いかし「活気あふれる」まちを実現』と設定し、多彩な産業集積、豊かな歴史的・文化的蓄積、伊丹空港、企業・市民力などの地域資源をいかして、人・もの・情報の交流を促進し、新しい文化と産業の創造などにより活気あふれるまちを目指している。

商業の目標としては、「商業・文化・集客の融合による、まちなかのにぎわいと活力づくりを応援します」と掲げており、中心市街地の具体策は以下に示すとおりである。

商業施策展開の方向性とアクション・プログラム

・中心市街地活性化策の展開

阪急伊丹駅周辺、JR 伊丹駅周辺、宮ノ前地域及びサンロード商店街地域の4地域を中心にそれらを結ぶ2軸で構成される中心市街地は、本市の顔であり、「住みやすく買物しやすい活気あふれる郷町(まち)」の実現に向けた取り組みを展開することとなっており、引き続き、中心市街地は4極2軸の考え方により活性化を図っていく。

【具体的な施策】

- ・商業振興特定誘致地区支援制度の充実・推進
- ・商店街購買客増加・安定化対策の推進
- ・郷町まつり(仮称)の開催
- ・中心市街地の神社・仏閣の活用

[3] その他の事項

特になし